

LINEとChatGPTを用いた教育における多機能支援チャットボットの研究調査

甲斐 友紀子 (香川大学 創造工学部)
平野 敏範 (香川大学 サイバーセキュリティセンター)
後藤田 中 (香川大学 サイバーセキュリティセンター)
香川県警察本部生活安全企画課犯罪抑止対策係

1. 背景

特殊詐欺被害 令和7年10月末現在

全国の特種詐欺被害状況 ^[1]	香川県の特殊詐欺被害状況 ^[2]
認知件数 22,675件 前年同期比 +6,210件 +37.8%	認知件数 307件 前年同期比 +129件 +72.5%
被害額 1,096.7 億円 前年同期比 +607.9億円 +124.4%	被害額 10.8億円 前年同期比 +4.9億円 +83.9%

詐欺に対する意識の比較^[3]

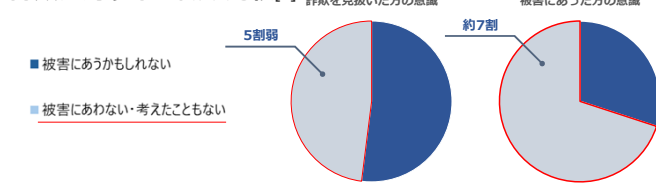


図1：詐欺に対する意識の比較

詐欺の手口が巧妙化していく中で、詐欺の手口についての知識を持っておくだけではなく、詐欺に対する意識を高める必要がある。

2. 目的

特殊詐欺を身近な脅威として認識してもらうこと

そこで…

特殊詐欺被害の体験型学習

- ・LINEを用いることで手軽に体験できる
- ・安全に体験できる
- ・生成AIを用いた動画やテキストでリアリティのある詐欺体験ができる



図2：ニセ警察詐欺体験アプリの画面



左のQRコードから無料で体験可能
※通信費のみ自己負担
(約5MBの通信費がかかります)
※開始すると音声流れます

3. ツールの設計

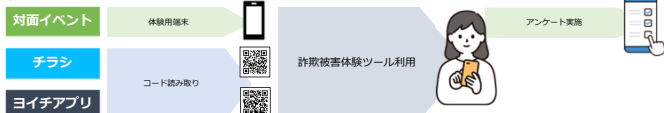
システムの構成



図3：産官学連携体制



利用の流れ



4. 実験

PBLの中で詐欺体験アプリの効果についてアプリ体験による体験者の詐欺に対する意識の変化を検証するための実験を行った。

実験の流れ

1. イベント参加者に対して詐欺体験ツールを利用してもらう
2. 体験後アンケートに答えてもらう

アンケートに回答した131名 2/13現在
(20歳未満：16名, 20代～30代：34名, 40代～50代：38名, 60代以上：43名)



図4：仏生山祭りでの詐欺体験ツール体験ブースの様子

5. 結果

体験前の詐欺に対しての知識と、体験後の参加者の詐欺被害防止への意識について、5つの質問を行った。これらの質問で詐欺被害体験ツールが参加者の知識、判断、姿勢に寄与できたかを見る。



図5：体験前の詐欺手口の知識についてのアンケート結果

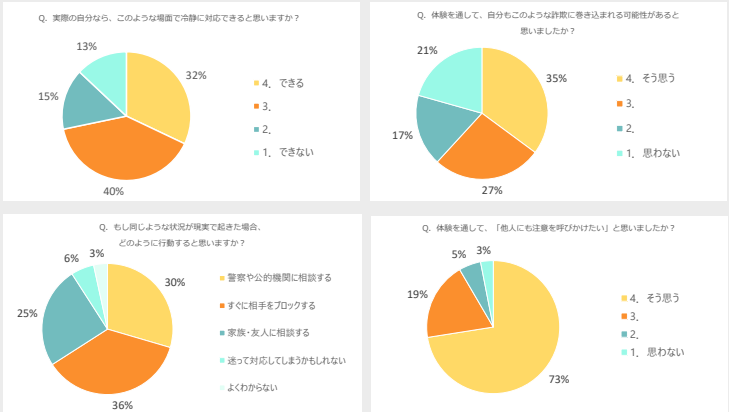


図6：体験後の詐欺被害防止への意識についてのアンケート結果

アンケートから以下の結果を得ることができた。

体験前

- ・4割以上が詐欺の内容は知らないと回答

体験後

- ・約9割が具体的な対応をとることができると回答
- ・約6割が自分も詐欺にあう可能性があると感じた
- ・8割以上が他人に注意を呼び掛けたいと回答

6. 考察・結論

- ・詐欺被害体験を通して参加者の詐欺に対する意識の向上と適切な対処法についての知識を得ることができたことが示唆される。
- ・LINEという身近なツールを用いることにより、他人事ではなく自分事だと捉えることができたと考えられる。
- ・今後はシナリオや動画コンテンツ・テキストメッセージを独自に作り変えることで、詐欺にとどまらない体験活動を行ってきたい。

7. 引用

[1] 【警察庁発表・令和7年10月】特殊詐欺やSNS型投資・ロマンス詐欺被害の深刻な実態・ウィルスバスター セキュリティヒックス (https://news.trendmicro.com/ja-jp/news-npareport-202512/?com)
[2] 香川県内でも被害深刻…オレオレ詐欺などの特殊詐欺被害総額 10月末までで10億円超に【香川】 | FNNプライムオンライン (https://www.fnn.jp/articles/-/960520?com)
[3] 香川県警察本部生活安全課、【R7.11未データ】特殊詐欺／SNS投資・ロマンス詐欺の被害にあわないために、安全・安心まちづくりNews 第221号